

日本科学未来館イベント「こどもからみる不思議世界探求」
にご参加いただいた皆様へ

2024～2025年の冬休みに上記イベントにご参加いただき、誠にありがとうございました。多くのお子さんとその保護者の方に参加協力いただき、大変貴重なデータを得ることができました。心より感謝いたします。

ここでは梅川の担当した「止まった絵から動きを感じよう」の実験結果について、参加された皆様全体の傾向について報告します。

研究実施者：梅川璃空(中央大学)

E-mail：a20.d8cd@g.chuo-u.ac.jp

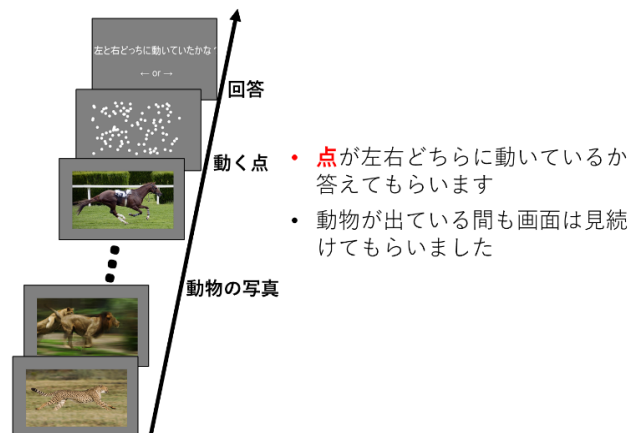
研究統括者：山口真美(中央大学)

研究概要

大人は実際に動いているものからだけでなく、走っている動物や人が描かれている絵からも動きを感じることができます。過去の研究では一方向に走る動物の写真を見続けると、見続けた方向と反対方向に点の動きがずれて見えることがわかっています(Winawer et al., 2008)。乳児でも同じ現象が起きることがわかっています。生後7-8か月の乳児は、一方向に走る動物の写真を見続けると、点の動きに対して反対方向に目が動くことが明らかになっています(Umekawa et al., 2024)。

今回は、子ども(6～12歳)も止まった絵から動きを感じられるのかを調べる課題を実施しました。一方向に走る動物の写真を見続けた後に、点の動きを観察してもらい、点が左右どちらに動いているかをキー押しで回答してもらいました。

もし子どもが止まった絵から動きを感じていれば、点の動きが見続けた動物の方向と反対方向に見えやすいと予測しました。動物の写真なしでの点の運動方向の正答率と、動物の写真を見た後の点の運動方向の正答率を比較し、動物の写真を見ると正答率が下がるかを調べました。



結果

動物の写真なしでの点の運動方向の正答率と、動物の写真を見た後の点の運動方向の正答率を計算し比較したところ、すべての年齢で動物の写真を見ると正答率が下がることがわかりました（下図）。このことから6～12歳の子どもは、大人と同じく、止まった絵からも動きを感じられることがわかりました。

